

バグダッド 日誌 (2月11日)

○イラクでアメリカの生活を可能にする

昨日、米軍は陸軍の部隊交代の際に全ての装備も入れ替えることを述べたが、米軍の物量作戦には驚かされることが多い。

日常生活においてもアメリカでの生活になるべく近づけようと努力している。

日常生活・厚生面については、という米軍の労務・役務を一手に引き受けている民間会社)が担当し、食堂、宿泊施設、PX、洗濯、清掃、ゴミ、シャワー等々、あらゆる面で我々の生活を支えている。

食堂は主にインド人を雇用して調理、配食(パフエスタイル)、残飯捨て等を実施させている。メニューは豊富でつつい採りすぎしてしまう。またオーダー・コーナーに行けば、朝はオムレツ、昼夜はハンバーガー、焼きそばのようなものを目の前で調理してくれる。またサーティー・ワン・アイスクリームも食べ放題である。

宿泊施設は、階級ごと作りは若干異なるが、大佐以上は8畳程度の大きさのプレハブに1人、幹部は2人、軍曹は3人で宿泊しており、シャワー・トイレは共同である。シャワーは24時間使用できるが水は貴重なためコンパクト・シャワー(5分以内のシャワー)が義務づけられている。(日本隊は、日本から送られた対弾用コンテナ(事務所兼用)で宿泊、このためトイレ・シャワーは遠い)

体育館は、市ヶ谷・住友ビルスポーツクラブの10倍はある規模の器具が設置されており、また新しく対弾用ジムを建築中である。GYMに行く際も、ID・武器は携帯する。また、あまり使用されていないそうだが屋外プールもある。

PXは、各キャンプに体育館のような大きさのものが1~2あり、隣接してピザ・ハット、スターバックスのようなコーヒー・ショップ、サブ・ウェイ(サンドイッチ)、現地おみやげ店等がある。食堂が発達しているにも拘わらずファースト・フード店が結構はやっている。

洗濯は、主にフィリピン人が雇用されており、布製の洗濯袋にいれて出せば、約2日後、畳んだ状態で出来上がる。もちろん個人がお金を払う必要はない。

掃除は、ヒスバニック系の人が多く、司令部のフロアからトイレにいたるまで綺麗に清掃している。先日の嵐で倒れた木等も翌日にはすべて片づけられていた。

その他、レンタカー・ショップが3軒、映画館があり、驚くべきことにディスコまである。ディスコは毎週金曜夜に開いており戦闘服・武器携行・アルコール類は一切なしであるが、若い隊員であふれているそうである。

は、「民間でできることは民間で。」を体現している。



バスラLO日々業務報告(2月11日1900)

区 分	内 容
1 警戒態勢	バスラ空港 (警戒態勢) :
2 特記事項	(1) (2)
3 本日の業務	(1) 情報要求対応 SSR (ISFの戦力化の状況)、MND(SE)の将来計画、IED及びIDF関連情報、デモ関連情報等 (2) 定例情報収集 : (3) 定例会議への出席 : 幕僚会議、J2・J3・J9認識統一会議
4 明日の予定	(1) 情報要求対応、定例情報収集 (2) 定例会議
5 その他(備考)	○ 周波数使用状況調査回答(サマワに確認) ○ 会計会議データ報告→クウェート分遣班へ